

巻 頭 言

英語コミュニケーション学科は、2017年4月、それまでの人間文化学部から、国際学科とともに分離・独立し、国際学部として新たな第一歩を踏み出した。国際学部の特徴は、全ての学生が海外に留学する点にある。英語コミュニケーション学科では、米国マサチューセッツ州にある昭和ボストンへの留学に加え、協定校への認定留学を推奨している。2012年に文部科学省グローバル人材育成推進事業に採択されて以来、昭和ボストンのカリキュラムをさらに充実させ、アジア、ヨーロッパなどの協定大学を開発し、海外留学プログラムを提供できる教育環境を整備してきた。その結果、英語コミュニケーション学科の学生は、英語圏だけでなく、タイ、イタリア、ポーランド、リトアニアなどの英語で学ぶことのできる大学にも留学するようになった。

このような留学体験を基盤として、これからのグローバル時代を生きる学生たちは、ことばや文化が異なる人々との交流を通して、多様な価値観を理解することが期待されている。多様性（Diversity）はこれからの社会で求められるキーワードである。この多様性は、日本で生まれ育ち、日本で生活している多くの学生にとっては、実際に触れる機会はそれほど多くはないかもしれないが、さまざまな国や地域で異文化の人々と触れ合うことにより体験することが可能となるであろう。

この多様性に関して、最近インターネット上で話題になった出来事がある。米国のファッション誌に日本の芸者風の衣裳を着用したモデルの写真が掲載され、米国を中心に批判の声が上がった。このモデルの女性は「文化を盗用した」としてツイッターに謝罪コメントを掲載したのだが、これに対して日本人の読者からは、その写真にはむしろ好感が持てたとする意見が多く聞かれたことも報じられている。

ここでは「文化の盗用」について論じるつもりはないが、このような出来事に対して関心を向け、多様な視点から異なる見方をすることは重要である。昨年、英国はEU離脱を決め、米国ではトランプ氏が大統領選に勝利し、今年1月には新政権が誕生した。このような「予測不能な時代」であればいっそう、他者を理解し、自己のアイデンティティを確立し、自らの考えを積極的に発信することが求められるのではないだろうか。新生英語コミュニケーション学科でも、学生が、世界各地への留学経験を通して、多様性を理解し、異文化の人々と協働できる人となってほしいと願っている。

この紀要への投稿者および編集室の方々に心からの感謝の意を表すとともに、本紀要を一つの拠点として、本学科の教育研究活動がいっそう活発になることを祈念する。

（英語コミュニケーション学科 恵）